

平成 28 年度 第 1 回学校関係者評価委員会議事録

日時：平成 28 年 7 月 20 日（水）18：00～19：00

場所：大阪医療福祉専門学校 10 階 1002 教室

司会：赤松事務局次長

書記：諸岡副部長

外部：三原 修(業界代表)・岡田 正次(高校代表)・段上 靖治(業界・卒業生代表)

田村 千加子(保護者代表)

※欠席：湖崎 淳(業界代表)・橋本 昌浩(業界代表)・田中 幸恵(近隣関係者代表)

内部：橋本 勝信(常務理事)・武田 裕(学校長)・赤松 滋子(事務局次長)

千葉 一雄(教務部長)・岸村 厚志(教務部長)・宇野 正明(事務部長)・

諸岡 邦行(事務副部長)・澄川 良一(事務部長補佐)・大槻 哲也(副学科長)

菊野 晃史(事務課長)

1. 学校代表挨拶

(橋本常務理事)

本日は 7 月末の暑い中、本校学校関係者評価委員会にご出席いただき誠に有難う御座います。

この委員会は本校が自己点検した項目を学校外の皆様から評価をしていただき、更なる改善をしていくことが目的です。

毎年行っておりますが、この学校は前へ前へと良い方向へと向かっております。本日の自己点検を見た限りでは教職員が頑張っているのかなと感じております。本日は外部の先生方からのご意見をいただき、より一層の改善をはかって参りたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

(武田学校長)

お暑い中、ご出席賜りまして本当にありがとうございます。

本校は専門且つ高度な専門教育を行っております。専門職業大学を作るという国の流れもありまして、我々もそれに向けて準備をしているところであります。本日はそれぞれのお立場から屈託の無いご意見を頂戴したいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 本日のスケジュール確認及び各委員の紹介

(赤松事務局次長)

事務局次長より、配布資料の学校関係者評価委員会名簿により、各委員を紹介及び本会議のスケジュール確認を行った。

また、

3. 平成 28 年度 自己点検・自己評価の内容説明について

(宇野事務部長)

平成 28 年度本校が実施した自己点検・自己評価内容を、大項目として挙げた 11 項目についての概要を説明する。

- ・教育理念・目的・育成人材像について
- ・学校運営について
- ・教育活動について
- ・教育成果について
- ・学生支援について
- ・教育環境について
- ・学生の募集と受け入れについて
- ・財務について

- ・法令等の遵守について
 - ・国際交流について
 - ・社会貢献について
- 以上 11 項目

4. 平成 28 年度重点項目説明について

(赤松事務局次長)

学校の運営には「5つの数字」がある。まずは入学者数である。いくら良い教育をしても学生が集まらなければ学校運営は成り立たない。次に退学率だが、これが本校では今一番問題になっている項目である。目標は4%未満であるが、それに向けての取り組みは後ほど説明する。

就職率は専門職ということで開校以来 100%は続けている。今年も早期に達成する見込みである。国家試験の合格率については、どの学科も全国の平均合格率を大幅に上回っている。来年は全ての学科で 100%合格となるよう早期から対策を立てて動いている。最後の数字が学費未集金である。社会情勢の動きに合わせてなかなか各ご家庭の金銭事情も厳しくなっている。

前述で申し上げた退学率に対する対策を説明する。退学者のデータを分析していると、1年生の前期に多くの退学者を出しているのが現状である。この時期の退学者が全退学者の 60%を占めている。これに対して今年からはプレスクールの強化、入学してすぐスポーツフェスの実施、コミュニケーション技法の授業の導入、新入生研修、就職フェアへの早期からの参加等、様々な仕掛けを行い、例年よりは落ち着いた初年次をむかえている。

その他、同窓会組織も以前は学科ごとに運営していたが、この度全学同窓会として発足させたため、生涯教育の充実もはかっている。

また、開校 15 年目をむかえ、校舎も傷んできている。今年女子トイレの改装と全フロアの照明を LED に変えた。次年度は男子トイレと校舎の内装のリニューアルを予定している。また外壁や空調も傷んできているため、3~5 年かけてリニューアルしていきたい。

5. 質疑応答

(三原委員)

それぞれの項目の自己評価を見ていると 4 段階で殆どの項目に 4 が付いているということは、大変自信を持っておられるのだと思います。ということは 3 を付けている項目は、適切で無いと判断されているものと推測します。3-15 の項目が 3 であること、学生支援の項目の 3、学生のボランティア活動のところも 3、ここらあたりが何故なのだろうと感じる。特にボランティア活動の項目は、学校の考え方として社会貢献という活動を教育方針として掲げているはずなのに 3 という評価であるのは、おそらく何かまだやり残しているものがあるのではないだろうか推測する。

もう 1 つは 1 年生時の退学が多いという説明があったが、現場で働いている立場としては、学校に入学した学生さん全員に専門職に就いてもらいたいとは思っていない。要するに資質のある人間だけが残ってくれたら良いと思っている。資質の無い人間を現場に送られるほうが困るのである。なので 1 年生の段階で資質が無いと自分で判断して退学していくことは決して悪いことでは無いと考えている。それと 4%という退学率は決して高い数字ではないので、カリキュラムの内容を見直すというよりも、「これだけの勉強をしなければならないのだよ」ということをはっきり示す方が良いと思っている。

(段上委員)

この委員会発足時から関わっているが、初めの頃と比較すると問題点が明確になってきて、それをど

んどん積極的に改善してきているなど感じている。ただし、課題として残っているのは、先ほどの説明であった5つの数字のところ課題にあがっていた部分が問題点に繋がっているように感じる。

退学率が学校の大きな問題になっているのは大変よく理解できる。

現場で、いろんな理学療法士養成校から実習生を引き受けているが、学校によって学生の質にかなりの差が出てきていることも実感している。

初年次での退学率が全体の60%ということだが、原因は専門職としての資質が無いのに学力が高いので試験だけができてパスして入学した者の退学者数が多いのか、それとも入学後の勉強内容があまりにも難しすぎてついていけなくなったから退学していった者ではどちらが多いのかが気になる。

(岡田委員)

評価を数値化した時に一番大切にしなければならないものは何か？をしっかりと考えて、それわ共有化してほしい。そして学生と教員の意識の乖離をどのようにして埋めていくべきかも考えてほしいと思う。項目にある授業評価の実施、退学率の低減が図られているか、学生支援の項目の自己評価が3であるが、これは全て繋がっているものと捉えてほしい。退学の理由は何か1つのことが原因であるということは稀で、複合的な要素が重なって退学に結びつくものだと考えてほしい。

学力が問題で退学に結びついているのであれば、合格通知を出した段階から何かしらの課題を与えて、入学する前の時間を有効に使うのも一つのやり方だと思う。

(田村委員)

入学直後は自分の娘が友達が出来にくいと言っていて、このまま続けていけるだろうかと悩んでいた。しかしスポーツフェスやグループワークをしていくうちに仲間もできて、学校が楽しくなってきたと言いだしたので、親としては入学直後にいろんな取り組みを学校がやってくれて大変感謝している。勉強じたいは大変難しいと言っているが、わからないところは皆で教えあっているようである。

自己評価の項目で3になっていたボランティアの件だが、娘も障害者支援を高校時代から続けており、積極的に参加したいと言っているので、是非いろんな分野のボランティア活動の機会を提示してあげてほしいと願っている。

6. 終了の挨拶

(宇野事務部長)

今回の委員会でいただいたご指導を十分にいかし、次回の委員会で報告させていただきたい。

今後とも一層のご指導をお願いしたい。

以上